

October 2014

最近のSCOPEの動向

今年は、SCOPE「設立20周年」の年であり、7月4日に東京會館において「記念講演会」と「20周年の集い」を行いました。記念講演会では、先日、土木学会会長に就任された高知工科大学教授で副学長の磯部雅彦様から「津波防災を踏まえた今後の沿岸域管理の目標」と題してご講演をいただき、約500名の方にご参加いただきました。講演会後の集いにも多くの方にご参加いただき、ありがとうございました。

さて、SCOPEの最近の動向と当面の予定についてご報告いたします。

1. SCOPE講演会について

最近話題になっているCIMの現状や課題を理解するために、8月5日に、大阪大学大学院教授の矢吹信喜様に「CIMと建設生産システムの変革」と題してご講演をいただきました。ご講演ではBIMとCIMの関連や情報メディアの変化、土木でのCIMの現状、アメリカの動きや国際会議の動向等幅広い内容とこれを受けた今後の発注方式の変化にも言及して頂きました。当センターでは今後もCIM関連の講演会を予定しており、10月7日にはオートデスク(株)の福地良彦様に、11月13日には高知工科大学教授の草柳俊二様を招いてご講演をいただくことにしております。

また、12月9日には広島大学教授の佐藤良様をお招きしてコンクリート関連(収縮及びせん断問題)の講演会を予定しております。

2. 海上工事施工管理技術者認定試験について

平成26年度海上工事施工管理技術者認定試験の一次試験(8月17日に実施)の結果が9月19日に発表になりました。約300名の申込をいただき、150名弱の方が合格されました。引き続き11月中旬から12月初旬にかけて全国6カ所で二次試験を実施します。受験者の方々には是非頑張ってください、資格を取得されることを期待しております。

3. 維持管理関係の研修及び講演会について

(1) 港灣施設の維持管理 実務技術研修について

メンテナンスを担当する技術者数の拡大とともに、維持管理の実務技術のスキルアップを図ることを目的として、民間港湾施設の管理者及び港湾管理者を対象とした、港湾施設の維持管理の実務技術研修を、11月27日、28日に広島で開催し

ます。この中では、維持管理の基礎となる施設点検の重要性や考え方のほか、事例に基づいた点検手法や劣化補修についての講義を行うとともに、現地見学も行います。



専務理事
岩崎 三日子

(2) インフラ・メンテナンス講演会について

メンテナンス事業には幅広い高度な技術とそれを有する技術者が必要

不可欠であり、プロフェッショナル、スペシャリストが担うべき分野です。次世代を担う若者にとり、創造性を発揮し得る仕事であると考えます。このような認識を広め、港湾関連施設におけるメンテナンス事業の裾野を拡大することを目的として、11月28日にイイノホールにおいて「インフラ・メンテナンス講演会」を開催いたします。予定しています講演者と演題は以下のとおりです。

東京大学大学院教授 家田仁様「危機的な現状、維持管理の重要性、対応の方向」、一般社団法人技術同友会 野呂一幸様「ビジネスモデルとしての維持管理と人材育成方策」、岐阜大学教授 高木朗義様「メンテナンス・エンジニア育成の取り組み」

皆様のご参加をお待ちしています。

SCOPE会長の西川は9月30日付をもって退任いたしました。
平成12年6月の会長就任以来、関係の皆様にはご支援を頂き
感謝申し上げます。

CONTENTS

- 1 最近のSCOPEの動向
- 2 2014 FAA Worldwide Airport Technology Transfer
Conference の報告
- 2 第9回理事会の開催報告
- 3 第27回SCOPE講演会の開催報
- 4 平成26年度海上工事施工管理技術者認定試験及び空港工事
施工管理技術者認定試験の実施状況
- 5 2014英国棧橋調査（イギリス）の報告
—震災にも強い24時間体制の国際拠点空港化へ—
- 6 SCOPE 現場訪問 東京国際空港（羽田空港）整備事業
- 8 SCOPEからのお知らせ

2011 FAA Worldwide Airport Technology Transfer Conferenceに参加して

(建設マネジメント研究所 上席研究員 西川 隆晴)

平成26年8月5日から7日の3日間、アメリカ合衆国ニュージャージー州アトランティックシティにおいて、FAA Worldwide Airport Technology Transfer Conference(米連邦航空局 世界空港技術移転会議)が開催されました。この会議は、ニュージャージー州のリチャード・ストックトン大学と米連邦航空局(FAA)が協賛し、4年ぶりに開催されたものです。今回は、“空港の安全と舗装技術の改革について”というテーマで、発表85件、世界14か国、190人以上の参加者がありAM8:30～PM5:30まで活発な議論が行われました。

SCOPEからは建設マネジメント研究所の八谷客員研究員、西川上席研究員と成田国際空港株式会社濱主席との共著で“Rehabilitation of Water -Damaged Runway Composite



Pavement”と言う表題で、コンクリート舗装上のアスファルト舗装への水分の影響と破損についての研究結果と、その対策について発表しました。

また、日本からは、もう1件、港湾空港技術研究所の河村研究官から“Durability of High Stability Asphalt Mixture under Aircraft Loading”と言う表題で高強度アスファルト混合物の耐久性について報告がありました。しかし、日本からはこの2件のみの発表であり、中国、韓国に比べ発表数が少なかったのが気がかりでした。

舗装技術についての会議に主に参加しましたが、発表内容は、開発中、または研究中のテーマについての発表の他、航空機のハイプレッシャータイヤによる舗装路面の影響とその

「第9回理事会」の開催報告

平成26年度3回目の理事会を9月16日(月)当センター6階の会議室で開催しました。

理事会には理事9名、監事2名が参加しました。西川会長が欠席のため矢代理事長が挨拶をし、その後来賓としてご出席いただいた国土交通省大臣官房技術参事官の菊池様のご挨拶の後、事務局より定足数確認の報告が行われ、矢代理事長を議長として審議が進められました。「組織規則の

対策を研究したもの、また、永久舗装(Perpetual Pavement)についての報告など、興味深く、参考になる報告が多くあり、国際会議を楽しむことが出来ました。

最終日の7日午後から15マイル離れたFAA William J. Hughes Technical Centerの見学ツアーがあり、最新の空港舗装に関する実験場を見ることができました。広い敷地の実験場には実物大の大型航空機荷重を載荷できる試験設備が多数設置され、航空機の大型化および新材料に対して官民協力し研究開発に臨む姿勢が、強く感じられました。



また、会場となったStockton Seaview Hotel & Golf Clubは、アトランティックシティから8マイル程離れた郊外にあり、近隣にはゴルフコースのほか何もなく、ゴルフクラブに缶詰の3日間、研修場所としては最適な会場でした。しかし、ここは1914年に設立され、100年の歴史を持ち、アイゼンハワー大統領、グレース・ケリー、ミックジャガー、ローリングストーン等の著名人が訪れたことのある由緒あるゴルフクラブでした。



また、2010年に、ここで、LPGA classicが行われ、日本の宮里藍が2打差で米メジャー初優勝したとの記念碑が飾っており、ゴルフに不調法な私にも、急に親近感が湧いたゴルフ場でした。

(経営企画部 総務課長 木崎 朋弘)

一部改正等の件」1件が審議され承認されました。その他として「株式会社海外交通・都市開発事業支援機構への出資の件」他を報告いたしました。内容は以下のとおりです。

【審議事項】

第1議案「組織規則の一部改正等について」

1. 災害対策支援室の設置

今年度よりSCOPE本部組織として恒常的に災害対

策支援業務を行う「災害対策支援室」を設置した。

2. 建設マネジメント研究所の組織関係

建設マネジメント研究所における調査・研究等の業務については、昨今の港湾空港の建設・維持管理事業等に係るシステム及びマネジメントを取り巻く環境・技術の変化に伴い、複雑かつ多様な要請等が見受けられ、機動的に対応する必要があることから、研究所に設置する各室及びグループの名称及び事務の所掌について、理事長の固有の権限とするための組織規則の一部改正を行った。併せて、これらの組織に係る「建設マネジメント研究所組織細則」を別途制定した。

なお、「公共調達支援総室」については、これまでの恒常的に研究所の基盤の業務を担ってきたことから、組織規則上明記したままとした。

3. 実施時期

上記1及び2の一部改正後の組織規則の施行は、平成26年4月1日。

【報告事項】

1. 「株式会社海外交通・都市開発事業支援機構への出資について」

「株式会社海外交通・都市開発事業支援機構」は主に東南アジアで計画されるインフラ整備・都市開発に支援の照準を定めています。SCOPEの設立趣旨である「港湾整備及び空港整備の推進と我が国経済の発展に寄与する」ことに合致いたしますので、今回、日本企業のインフラ輸出を支援する新会社に出資することについて報告致しました。

2. 「平成25年度優良業務表彰について」

本年国土交通省より受賞した以下3件について報告をいたしました。

国土技術政策総合研究所長表彰

「新積算手法導入に向けた積算支援機能改良業務」

同上 管理技術者 中山 亮（個人表彰）

和歌山港湾事務所長表彰

「和歌山下津港等施工状況確認等補助業務」

同上 管理技術者 島崎 義一（個人表彰）

小松島港湾・空港整備事務所長表彰

「平成25年度小松島港湾・空港整備事務所品質監視等補助業務」

同上 管理技術者 前藤 和彦（個人表彰）

3. 「会長の辞任表明を受けたSCOPEの対応について」

西川会長より、会長職及び理事を辞任したい旨の打診があったため、会長空席の場合の対応について以下のとおり報告いたしました。

1) 理事会の招集及び議長

理事会の招集及び議長は理事長が代行する。

2) 評議員会の招集

当面の間は理事会の招集と同じように、理事長が代行する。

最後に、今回の理事会の開催にご協力いただきました関係者の皆様に感謝を申し上げ、報告とさせていただきます。

第27回 SCOPE 講演会の報告

（経営企画部 公益推進課長 入部 忠道）



8月5日16:00より、大阪大学大学院工学研究科教授 矢吹 信喜 氏に「CIMと建設生産システムの変革」と題してご講演をいただきましたので、報告いたします。

講演の要旨は以下のとおりです。

1. BIM (Building Information Modeling) とは

- 1) 建築で使用しており、標準化された3次元のプロダクトモデルを中心に、データを共有しながら統合的に仕事を進めていく
- 2) 意匠設計、構造設計、設備設計、生産設計というプロセスを同時進行的にやることにより、仕事の効率化、ミスの減少、コストの削減に加え、

施工のやり易さが期待されている

- 3) 建設コストの最小化からLCCの最適化に向かっている

2. CIM (Construction Information Modeling) とは

- 1) 情報工学や機械工学の分野ではComputer Integrated Manufacturingの略で30年以上使われている
- 2) 国交省ではCIMの試行を2012年度は11件、2013年度は約40件を実施したが、現状は市販の3次元のCADを使って可視化、干渉チェック、数量計算にとどまっている
- 3) 建築では標準化されたプロダクトモデル(IFC)があるが、まだ土木のほうではない
- 4) 計画、設計、施工のデータを蓄積し、すべてのデータを維持管理に渡すことを目指している

3. 情報の流れの変化

- 1) 昔は頭の中の3Dだったが、19世紀には紙に2次元の図面を描いたが、21世紀はコンピュータの中に3Dを作るようになった

4. 土木の世界

- 1) 標準化されていないが、鋼橋、鋼桁橋、PC橋梁のプロダクトモデルが開発された
- 2) インフラ関係のプロダクトモデルの活動ではEU、オランダ、スウェーデン、ドイツ、韓国で非常に盛んである

5. アメリカの状況

- 1) 設計段階でのミスが訴訟に発展する可能性がある
- 2) フロントローディング（前倒し）には、設計施工分割発注より、設計施工一括発注が適している
- 3) より効果を上げるための方式の一つとして、発注者と建設コンサルタント、請負業者のまん中にプログラム・マネージャーを配置する方法がある

6. 国際会議

- 1) 世界最大の土木建築の情報系の国際会議であるICCCBE(偶数年開催)が今年の6月にオランダで開催され、次回は2016年には大阪で行う予定である
- 2) 来年の4月には東京でICCBEI(アジアが中心)を計画している

7. 今後の発注方式の変化

- 1) 公共事業の現状は、コンサルと請負業者に分割発注しているが、BIMの流れを見ると、デザイン・ビルドあるいはPPP、BOT等の新しい方法に変わる可能性がある
- 2) 建設生産システムが、CIMを一つの契機とし、品質確保、発注者責任といった流れを受けて、変わりつつある
- 3) 特に維持管理には設計・施工・管理のデータをきちんと見て、判断していくが必要になってくる
- 4) 今後は、隠すからオープン化、縦割りからコラボレーション、部分最適化から全体最適化が重要である

平成26年度 海上工事施工管理技術者認定試験及び空港工事施工管理技術者認定試験の実施

(審査・認定部 主任研究員 島田 伊浩)

・海上工事施工管理技術者認定試験

平成26年度の1次試験(選択式)を、8月17日に札幌、東京、大阪、広島、福岡、沖縄の6会場で行いました。受験申込者は302名で受験者は278名でした。

1次試験には147名が合格し、9月19日に結果を発表しました。

合格者は今後、11月中旬から行う予定の2次試験(面接試験)へと進みます。最終的な合格発表は平成27年1月下旬を予定しています。

海上1次試験不合格者への通知文について、今年度から下記に示す内容にしました。

「合格に達しなかった方の中で、あなたの共通及び専門の得点につきまして、合格ラインに達していた場合をGとし、下回った場合は合格ラインに近い順に【A,B,C】で示しています。」

G. 共通あるいは専門は合格ラインに達しています。

A. あと一歩で合格ラインです。

B. もう少し頑張ってください。弱点分野をなくしていきましょう。

C. 参考資料等を活用し、海上工事全般に関する知識、技術力の向上を図ってください。

■海上工事施工管理技術者1次試験の実施結果

分類	I類	II類	III類	合計
申込者	77名	184名	41名	302名
受験者	71名	169名	38名	278名
合格者	37名	91名	19名	147名
合格率	52.1%	53.8%	50.0%	52.9%

・空港工事施工管理技術者認定試験

空港工事施工管理技術者認定試験を、8月17日に札幌、東京、大阪、広島、福岡、沖縄の6会場で行いました。受験申込者は137名で受験者は105名でした。

合格発表は、12月15日を予定しています。



東京会場での試験状況

2014 英国栈橋調査（イギリス）の報告

（調査部 調査役 志村 浩美）

1. はじめに

英国において1700年代中期に海水が健康に良いと云われ、貴族たち上流階級が保養と社交ため海岸リゾートを開いた。やがて、海岸にプロムナードが整備され、栈橋を建設し「海の上を散策」することが流行し始めた。産業革命を背景に、全国各地約110箇所も建設された。その後、暴風や波浪、船舶の衝突、火災、老朽化等により消滅し、英国栈橋協会によれば現在は58箇所が残っている。今回は7月7日から18日までの日程でドーバー、ブライトン、ポーツマス、ワイト島、プリマス、カーディフに存在する30箇所の栈橋について調査を行った。

2. 調査した栈橋の紹介 ～ディール栈橋 Deal Pier～



栈橋位置図

ディール栈橋は、古くから釣りの適地として釣りをする人に非常に人気があって、辺りでは多くの魚が釣られている。週末は24時間利用可能で、栈橋の入り口前面には Embracing the Sea という大きな4匹の魚と戦う男を描いた、彫刻が置かれている。栈橋両

側の地覆と高欄は、栈橋延長方向に連続するベンチとなっている。ベンチの座面は、木製で所々、破損したままの状態となっている。このベンチは、栈橋のどの位置でも座って景観



上：彫刻と入り口の様子/下：床板舗装の様子

を楽しむ事が可能である。また、栈橋中央部分の床面は滑りにくいローズピンク色のカラー舗装が施されており障害となるものは無く、行楽客はストレスを感じることなく栈橋上の遊歩を楽しむ事が可能となる。上部デッキ床面は、木製部分と銅製のエキスパンドメタル部分があるが、意匠的にパッチワークが施されているか定かではないが、不思議と粗野な印象を受けることはなく、「ヨーロピアンキルト」を連想させる自然なものと感じられた。



上：栈橋先端の下部デッキ/下：栈橋先端の上部デッキ

3. 英国海岸リゾートの印象

英国のリゾート地に限らず英国の全体的な景観の印象は、全体的に落ち着いたトーンの色彩であることが伺える。各家庭は低い垣根、自然石を多用した外壁とウォール、ハーブ系の色合いの落ち着いた草花が植えられている。リゾート地の建物は低層で自然な佇まいで周囲と調和している印象である。海岸に目を向けると、ベージュ色の海岸線とブルーグレーの空、そこへ割って入るシンボリックな栈橋は海岸から沖合へ雄大な全体像を見せつけている。一方、栈橋上からは沖合の水平線、海外線の延長には切り立ったクリフ、ビーチでは賑やかな様子が見て取れる。変化を好まないといわれる国民性が景観を創造する根源となっているのかも知れない。



ディール栈橋全景

Site Visit

SCOPE 現場訪問

—震災にも強い24時間体制の国際拠点空港化へ—

東京国際空港(羽田空港)整備事業

羽田空港支部

調査役 管理技術者 柿崎 勉さん
管理技術者補 鈴木 彰さん
主任テクニカル・エキスパート 相川 誠さん
テクニカル・エキスパート 宇都 悟さん
松岡 康和さん



People who create port and airport.

首都圏の空の玄関口として競争力を強化

東京国際空港(羽田空港)は、平成26年4月現在(東京航空局東京港湾事務所調べ)、国内28都道府県・49空港と1日511便があり、国際線では24都市とネットワークを形成、国内・国際合わせて年間6,670万人に利用されている日本最大級の空の玄関口です。

本誌23号でもご紹介した通り、24時間国際拠点空港化を推進しており、首都圏空港としての機能強化のために、C滑走路延伸、国際線地区の拡充、及び国内線・国際線エプロンの増設と着実に整備を進めています。また、首都直下地震への対応として、地震災害時においても空港機能を維持できるように、施設の耐震化や滑走路の液状化対策が進められています。



People who create port and airport.

C滑走路延伸で大型国際線就航も可能に

現在進められている主な整備は【平成26年度 主要整備事項】の通りです。

「滑走路・誘導路の制限区域内工事は、空港運用に影響を与えないように作業曜日・時間帯に制限があります。担当技術者5人(夜間)が15件余りの施工状況確認補助業務を担当することになるので、作業を中断しないように効率的な立会いを行うよう配慮しています。特に本年度の夜間業務は『①夜間勤務は、週5日勤務。但し、休日は、A(土日)・B(月金)・C(火金)の3パターンとなるこ

DATA 東京国際空港(羽田空港)整備事業

- 整備内容：C滑走路延伸(南側360m)、エプロン(駐機場)増設、空港アクセス道路改良、護岸改良、際内(国際線と国内線を結ぶ)トンネル整備、C滑走路耐震化
- 平成26年度事業費：197億円



と。②作業曜日により工事種別・工事件数が異なり、担当技術者の人数もそれに伴い変動すること』という厳しい環境にあるので、バックアップ体制など綿密な要員配置を実施しています」(調査役 柿崎さん)

「複数の立会いが重ならないよう予定表を作成して作業にあたっています。また、立



調査役 柿崎さん

会いが遅延しないよう、現場の受注者には事前準備をお願いしています」(調査役 鈴木さん)

この滑走路の延伸は今年12月中に完成予定で、完成すると長距離国際線の大型機が深夜早朝時間帯に数便程度、就航が可能となります。これに関連した国際線地区のローディングエプロンは、10月に完成しています。

People who create port and airport.

空港アクセス道路の地盤改良工事

空港アクセス道路の改良も行われており、国際線地区と空港跡地第2ゾーンの一体的土地利用を図るため、構内道路(環状八号線 羽田空港・穴守橋脇立体交差部)を2車線から3車線に拡幅する工事を行います。このため新設道路直下の共同溝が先行して整

備されています。

構内道路（環八）は、地震などが起こった場合に防災時緊急輸送道路となるため、共同溝の耐震化、及び立体交差部の函渠拡幅に併せた耐震化も進めています。またこの区間を含む空港跡地第2ゾーンの多摩川沿いに今後、高潮対策として防潮堤も同時整備する予定です。



今回の取材では、構内道路の函渠拡幅工事で国際線地区共同溝工事の現場を取材することができました。

立体交差部は、上を環八、下を外周道路がとおり、何れも交通の要衝です。また、鉄道のトンネルやライフラインの地中ケーブルが近接するため、他の施設に影響を与えない施工が求められています。「道路の拡幅に伴う地盤改良工事では、高圧噴射攪拌式（φ5.0m）を採用しています。まず既存の40～50cmのコンクリートの底版を撤去して孔を空け、そこからセメント改良土を注入します。改良時に、セメント改良土と入れ替わりで出てくる膨大な汚泥はポンプで掻き出します。掻き出した汚泥はダンプに入れて運び、産業廃棄物として処理します」（テクニカル・エキスパート 相川さん）



People who create port and airport.

ライフラインを守る共同溝

共同溝では耐震対策として共同溝周囲の液状化対策を行っています。共同溝は電気やガス、水道などのライフラインをまとめて地下に収納するための施設で、不具合が発生した時などにすぐに

点検できるため、維持管理が容易でコスト面も抑えることができます。ここでは監理技術者の乙部俊明さん（東亜建設工業(株)）にもお話を伺いました。

「共同溝の現場では、埋設後、施工に起因した漏水が発生しないよう、躯体コンクリートのひび割れ対策に重点を置いています」（監理技術者（所長）乙部さん）



People who create port and airport.

国際線・国内線の乗り継ぎをもっと便利に

今年度、新たに国際線ターミナル地区と国内線ターミナル地区を結ぶ際内トンネルの施工が検討されています。

「成長戦略会議では羽田空港の乗り継ぎ利便性の向上策として、『制限区域内でのターミナル間連絡バスの活用や各種検査手続き等の施策により、出国時60分（30分短縮）入国時75分（25分短縮）の実現、さらなる、最低乗継所用時間（MCT）短縮に取組む』と示されました。羽田空港は国際線・国内線の乗り継ぎが不便といわれていますが、このトンネルが完成すれば乗り継ぎの利便性が向上すると思います」（調査役 柿崎さん）

現在行われている一連の整備事業が完成すれば、首都圏交通の利便性が上がり、ヒト、モノの活性化の基盤となる立地競争力もさらに強固なものになるでしょう。



▲左から 相川さん、松岡さん、宇都さん、鈴木さん

People who create port and airport.

Voice

現場からの声

【調査役 管理技術者補 鈴木 彰さん】

発注者の施工立会等の補助業務を担当していますが、制約条件が厳しい空港内でタイトな工程・タイトなタイムスケジュールが常態化する工事環境のため、工事受注者に無理をお願いしなければならぬこともあるかと思います。これを良い方向に持っていくには松山支部長曰く『一生懸命にまじめに取り組む事が基本』だと思います。しかし、猪突猛進は戒め、留まることも忘れてはいけません。また、発注者・工事受注者等の皆さんと意見交換が可能なネットワークの構築が重要だと考えています。航空局（CAB）のある方が『C（クラッチ）、A（アクセル）、B（ブレーキ）が大切』と仰っていました。自分自身も実践していますが、思い込みは禁物です。

【主任テクニカル・エキスパート 相川 誠さん】

羽田空港の国際線化は目を見張るものがあります。それに伴い、空港の機能拡充工事は件数も大幅に増え、私たちの施工状況確認補助業務も昼夜にわたり繁忙を極めています。そういう忙中であって通勤途中のモノレール内で聞き慣れない言葉を聞く瞬間、国際空港で働く誇りと責任を感じる今日この頃です。

【テクニカルエキスパート 宇都 悟さん】

羽田空港では、現在、多種多様な工事が順次進められています。そのような中、施工状況確認補助業務に関わる一員として施工者時代に培った設計・施工の知識や経験を活かしつつ、空港工事の特殊性を十二分に理解した上で、常に中立性・公平性を保つことを心掛け、微力ながら羽田空港整備事業の一翼を担っていくんだという気概をもって業務に携わっています。

People who create port and airport.

Voice

今回は東京航空局 東京空港事務所の皆さんにお話を伺いました。

国土交通省 東京航空局 東京空港事務所
次長 勝谷 一則さん

「私は初めての事務所勤務ですが、実際に現場につくと施設の膨大さを日々実感しています。本来は、最初から使いやすい空港を作ることができれば簡単なのですが、羽田のように前提が変わり、後から広げるとなると、どこかにしわ寄せが来てしまうので、難しいところもあると思います。いずれにしても、安全第一に進めてほしいと思います」

国土交通省 東京航空局 東京空港事務所
管制保安部 次席航空管制官 高見 淳さん

「元々羽田空港は国内線が主流で、3000mの滑走路があれば離着陸には特に問題ありませんでした。しかし長距離国際線が出入りするようになり3000mでは心もとないということになってきたので、C滑走路が延伸されることはとてもメリットがあると思います。また、羽田空港では基本的に管制処理能力が高い北風運用をメインにしていたのですが、国際線が増え、航空会社の方から『南風のある滑走路から出たい』という要望が多くなりました。1機だけを南風専用の滑走路から出すと他の航空機の流れを阻

害してしまうので難しかったのですが、延伸されることによってこうした問題が減るのではないかと思います。ただ、国際線が増えたことで南風運用の時に飛行機が集中し、誘導路の不足などが問題になっています。利便性が増すと共に、新たに課題も出てくると思います。管制は安全第一です。安全性は妥協せず、かつ国民のニーズである定時制・効率性を踏まえることを常に考えながら業務を行っています」

国土交通省 東京航空局 東京空港事務所
管制保安部 次席航空管制運航情報官 齊藤 章男さん

「昨年度末に国際線の北側のエプロン、PBB（パッセンジャー・ボーディング・ブリッジ）といわれる固定スポットが運用を開始し、元々あった5スポットに加えて3スポットがPBB化されました。お客様にとってはバス移動がなくなり利便性が良くなったと思います。しかし予想以上に国際線の便が増えたので、ナイトステイ部分においては何機かは国内線側を利用することもあり、現在、国際線のナイトステイのスポットを増設するための誘導路整備の工事が新たに行われています。各航空会社さんのご意見や、空港整備工事、維持工事など様々なセクションの話を聞きながら安全に空港運用を行うことを意識して仕事をしています。これから大変だと思いますが、皆さんと調整しながらうまく進めていきたいと思っています」

取材・文：(株)ホライゾン

SCOPE からのお知らせ

SCOPEの平成26年11月～12月の主な行事予定

- | | |
|-----------------------------|-----------|
| ○ 空港土木講習会（東京） | 11月7日（木） |
| ○ 第29回 SCOPE 講演会 | 11月13日（木） |
| ○ 空港土木講習会（福岡） | 11月20日（木） |
| ○ インフラメンテナンス講演会 | 11月28日（金） |
| ○ 第30回 SCOPE 講演会 | 12月9日（火） |
| ○ 平成26年度海上工事施工管理技術者認定試験二次試験 | 11月16日（日） |
| | 12月6日（土） |
| | 各会場 |
| 同認定試験合格発表 | 平成27年1月下旬 |
| ○ 平成26年度空港工事施工管理技術者認定試験合格発表 | 12月12日（金） |

皆様のご意見ご感想をお待ちしております。



一般財団法人 港湾空港総合技術センター

URL: <http://www.scopenet.or.jp>本部：〒100-0013 東京都千代田区霞ヶ関3-3-1 尚友会館3階
代表 TEL: 03-3503-2081 FAX: 03-5512-7515

※本誌は、環境に優しい大豆インクで印刷しています。